

くらしと環境のいい関係①

家電エコポイント

環境政策課
☎224-5866

市では、平成21年3月に「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、「川越市地球温暖化対策地域推進計画」を策定しました。この計画では、市域において二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガス排出量を、平成2年から同24年までに0.6%削減することを目的としています。このコラムでは、家庭からのCO₂削減を目標に、くらしに役立つ環境への取り組みを紹介していきます。

引っ越しが多いこの季節、家電製品を買い替える方もいるのではないのでしょうか。買い替えのとき、省エネ性能ラベルの★が4つ以上の地上デジタル放送対応テレビ、エ



アコン、冷蔵庫を購入すると、エコポイントが取得できます。

例えば、10年前の32型ブラウン管テレビを、★4つ以上の同型液晶テレビに買い替えた場合、年間の電気代は、今までのものと比べ、1,500円以上安くなります。エコポイントは12,000点、さらにリサイクルで3,000点、合計15,000点取得できます。エコポイントは1点につき1円相当の商品券などに交換できます。

省エネ製品は、電気代が安いだけでなく、CO₂の排出量も削減できるため、環境や家計にやさしい買い物となります。

エコポイントは、12月31日の購入分まで取得できます。商品購入後、平成23年2月28日までの登録申請と、同24年3月31日までに交換が必要です。

今回出かけたのは

「川越市駅」

まちの魅力や小さな発見を紹介するコーナー。今年度は、駅周辺の散歩がテーマ。



川越再発見

パオリンピックの影響が、例年より、来場者が増えているとか。しばらく進み、川越市駅入口の交差点。洋風建築の旧六軒町郵便局は、六軒町交差点方面へ十メー

ケート場の裏側に雪山発見！（写真）。リンク整備で削られた氷が、勢いよく積み重なっていました。

改札から北に向かうと、県内唯一の屋内スケート場がある大きな建物が見えます。バンクー

トルほど歩いてから振り返るのがポイント。側面からは細く見えた建物を、正面から見ることができて進むと、右側に高校の正門前から続く桜並木が見えます。左側の教会入り口には、鮮やかな黄色いミモザの花が咲いていました。

消費生活の豆知識

その1 連鎖販売組織に加入したが、大丈夫？

生活情報センター ☎226-7066 / 7066 (相談専用) ☎226-7476

事例

大学生の息子が、ネットワークビジネスの説明会に行った。友人から「人を誘って入会させれば月百万円の収入になる」と言われ、組織に加入。学生ローンで借金して健康食品を購入したが大丈夫か？

ような業者は、悪質な業者である可能性が高いと言えます。加入者が見つからず、多額の借金と商品の在庫を抱えてしまうケースが多く、また、友人を誘うことで人間関係が悪化することもあります。

契約内容をよく読み、ビジネスの仕組みやリスクをもう一度確認しましょう。

消費者へのアドバイス

ネットワークビジネスとは、人を介して商品を連鎖的に販売する仕組み、いわゆるマルチ商法です。商品の販売を目的としな

① 契約書面の受領日から二十日間以内はクーリング・オフができます。それ以降でも一定の条件を満たせば、中途解約ができます。

い無限連鎖講（ねずみ講）と違い、必ずしも違法ではありません。しかし、法律によって不当な勧誘行為などが規制されています。

② 困った時は、すぐに生活情報センターへ相談してください。

このシリーズは、自立生活問題研究所長・谷口明広たぐらあきひろさんを招いて行った、人権問題講演会の要旨を人権推進課でまとめたものです。

「知り合い、触れ合い、学び合い」という三つの「あい」がないと、障害のある人たちへの理解は絶対できないと思っっているんです。

障害者自立支援法ができました。私たち障害者には、非常に苦しく、負担が大きくなってきました。障害のある方にも、できることはやっていただく、お金を負担してもらおう、

それはすごく大事だと思います。

しかし、あまり過剰になつてはいけないと思います。障害のある方が、生活できないほどの自己負担を取られては、本当に楽しい生活は、送れません。国は、障害のある方の生活を考えたときに、最低限の生活保障といえます。そうしたら、皆さんも障害のある方の生活を見たときに、

「最低限の生活保障だったら、喜ばないとかんよね」と言われるかも知れません。一週間に二回のお風呂がですよ、最低限の生活保障でしょうか。喜べるでしょうか。

障害のある方の生活が、良くならないと皆さんの生活も良くなるかと思っっています。障害のある方は最低限の生活を保障されたら、それで

満足しなさい。これが最も大きな差別だと思えます。障害のある方は、自分が努力することにより、もっと幸せになつていきます。幸せにならないといけません。

しかし、国や市町村は、最低限の生活を保障するべきだと思っっています。ですから、最低限の生活は、スタートラインだということを最後に皆さんにお伝えしておきたいと思っます。

(つづく)

品格あるまちを目指して

市長からの手紙



変えます。ここを！ ①「外郭団体」

このコーナーは、今回が第1回です。今後しばらく「ここを変えます」というテーマで書きたいと思っます。

私が市長に就任してから、1年が経過しました。この間、市の外郭団体において2件の不正行為が発覚しました。市の監督不行き届きの点を、市民の皆様にご改めておわび申し上げます。

昨年3月には①社会福祉協議会での不正行為、11月には②財施設管理公社での不正行為が明らかになりました。いずれも私に報告があつてから時間をおかずに、市の広報で概要をお知らせしたとおりです。①は平成15年から同18年にかけて、②は平成19年11月から昨年11月にかけての行為です。②は、不正行為者が事実を認め、公社が被つた損害は100%補てんされました。しかし、①は現在捜査中で、まだ行為者が特定されておられません。

社会福祉協議会も施設管理公社も、川越市とは別法人です。しかし、市と密接な関係にある、いわゆる市の外郭団体です。

外郭団体に不正行為が続いた原因はいくつかあると思われまます。市の監督が不十分であつたことや、当該組織に緊張感が欠けていたことも、その要因であることは否めません。組織に緊張感が欠如している原因の一つは、プロパー（生え抜きの）職員のほとんどが、これまで公募による試験で採用されていないことにもあると思っます。もし、それが緊張感欠如の原因でないとしても、市の関連団体が職員を公募採用していないということは、現代では論外であると思っます。

今後不正行為が発生しないよう、市は、社会福祉協議会・施設管理公社を含む全ての外郭団体に対して、就業体制を整備し、緊張感を持って業務運営に当たるよう監督・指導を強化しています。職員採用は、各団体がそれぞれ決めることですが、今後は競争試験の導入を徹底するよう、市からの指導を強化しました。

川越市長 川合善明